1　自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2870200629		
法人名	社会福祉法人　光朔会		
事業所名	グループホームオリンピア灘		
所在地	兵庫県神戸市灘区灘北通3丁目1-15		
自己評価作成日	平成24年12月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107
訪問調査日	平成25年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

常に新しいことへのチャレンジを続けるオリンピア灘は、「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念のもと、利用者の可能性を最大限に引き出すケアを行っている。住み慣れた地域で継続してケアを受けることができる共用型デイサービスでは、信頼関係を築いた上でのグループホーム入居という理想的なスタイルを確立している。今年度は灘区「地域力を高める」手作りの活動・事業助成を受けて、地域住民とともにSalon de l'Olympia Nada（講演会等）を開催するなど、地域との協働の機会も多くなり、地域住民の認知症理解を深めることにも貢献している。リーダーによるパーソンセンタードケアの勉強会も定期的に実施し、ケアの原点を見つめ直し、スタッフの成長へとつなげている。さらに、最先端ケアのノウハウを獲得するために、法人で年一回実施しているスウェーデン研修にも積極的に参加している。今後もオリンピアの創立から脈々と受け継がれてきた「イエス・キリストの愛と奉仕の精神」を大切に守り、一層の飛躍を目指していく。

「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念のもと、職員は、利用者の尊厳を大切にした生活ができるように支援に取り組んでいる。住み慣れた地域での生活が継続できるように、事業所全体で、地域に向け事業所の特色を活かして講演会等を開催して地域から理解され、相互の協力を行いながら利用者が地域とつながり暮らし続けることができるよう取り組んでいる。利用者一人ひとりのできる力を活かして献立作りから調理や盛り付け・配膳・後片付けまで、家庭生活が自然に行われ、利用者全員参加で調理ができるように職員は配慮している。定期的な専門医の往診があり、利用者の病状や身体状況については情報の共有を図り、利用者の健康管理に活かしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「高齢になっても、今まで通りに誇りを持った暮らしを地域の中で安心して続けるお手伝いをさせていただくこと」を理念とし、理念実践のための3つの約束とともに、毎日の朝礼、カンファレンス、内部研修等を通じ、全職員で共有、実践している。またリーダーによるパーソンセンタードケアの勉強会も定期的に実施している。	地域密着型サービスとしての役割も盛り込んだ理念の朝礼での唱和を継続している。各ユニットの利用者の状況や職員の状況によりユニットのビジョンを明確にしてケアの実践を行い理念の浸透を図っている。ブレーンストーミングで話し合いを行い「喜怒哀楽」とビジョンを定め利用者のあるがままの感情を受け止めスタッフと共に楽しく、安心して過ごしてもらえるようにしていくことで理念の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会に加入し、地域の方が気軽に立ち寄れるホームとして、また日々の外出、買い物、地域の行事への参加を通じ交流を図っている。今年度は、地域住民とともにSalon de l'Olympia Nada（講演会等のイベント）を開催し、地域とのつながりがより深くなっている。	近隣への散歩・外出だけでなく、近隣の保育園の園児の来訪や近隣の居酒屋へ利用者と共にお酒を楽しみに出かけたりしている。花見も利用者の見に行きたい場所に出掛けるようにしている。地域住民とともにSalon de l'Olympia Nadaとして区の「地域力を高める手作りの活動事業助成」の支援を受け地域に向け事業所の特色を活かして講演会等を開催し地域から理解され、相互の協力を行いながら利用者が地域とつながり暮らし続けることができるよう取り組んでいる。地域交流アルバムを作成しており、地域交流が年々進んでいることが分かる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	Salon de l'Olympia Nada、オリンピア福祉塾講座等の勉強会を開催したり、地域での会合に講師としての参加を通じ、、地域の方の「認知症」の理解や支援に努めている。また、地域の方の見学も多く、現場での経験を活かして相談に乗り、デイサービスの利用や入居につなげている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、写真やビデオ等を利用し、日々の生活やイベントの様子を報告している。また、評価への取り組み等についても報告し、質向上のための話し合いをしている。会議で出された意見・要望等には素早く対応し、サービス向上に活かしている。	入居者の方と共に開催準備から行い開催時には利用者も体調や希望に応じて参加している。開催には家族、知見を有する方、地域包括支援センター職員、地域住民代表として自治会役員の方が構成メンバーとなっている。会議開催では、日々の生活・活動状況が分かるように写真を用いている。地域包括支援センター職員や地域住民代表者だけでなく、利用者からの発言もなされている。Salon de l'Olympia Nadaの活動についても議題として出され、運営推進会議を通して地域と共に相互の協力を行い活動に活かすように取り組めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは役所に出向いたり、電話等により日常的に情報交換を行い、適切な指導を受けている。今年度もSalon de l'Olympia Nada開催にあたり、問い合わせ等積極的に行っている。また、市担当者からの見学も受け入れ、より良い協力関係の構築に努めている。	市の担当者とは事業所だけでなく法人全体で情報交換を行い相互に協力関係を持っている。米寿や喜寿のお祝いに市の方が来訪される場合には、グループホームへの理解を深めてもらえるように事業所側から積極的に説明を行っている。Salon de l'Olympia Nadaの開催についても市との連絡・連携を密に取られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組むために、研修を実施し、職員一人ひとりの意識を向上させると共に、身体拘束廃止の理念をホーム長および全職員が共有している。また、玄関、エレベーターは日中施錠せず自由に出入りができるほか、心理的な鍵をかけないようにも取り組んでいる。	年間の研修計画で拘束について学ぶ機会を持っている。理事長の介護従事者研修においても、職員は拘束について繰り返し学ぶ機会を持ち、理解を深めており、日々何気なく行われているケアの中で拘束につながることはないか気づきを持ち話し合い・検討を行っている。家族からベット柵使用の希望があっても家族に理念の内容を説明し、家族の理解と協力を得て拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。褥創予防のために体位保持で枕等を使用することで利用者自らの意思に応じての動きを妨げる身体拘束につながるとの話し合いも行われている。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修を定期的に実施し、虐待の定義や高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設けている。虐待の危険性や早期発見の重要性、職員の心のケアについても話し合い、身体的な虐待だけでなく、心理的な虐待も見過ごされることがないよう注意を払っている。	身体的に行われる暴力だけでなく、放置も虐待につながることを理解している。理念に謳われている「その方の尊厳を守る」ということは、拘束をしない、虐待を未然に防ぐにつながると理解されている。カンファレンスの中では、利用者の生活を日々支える中での虐待につながっている言葉や対応がないか気づきを全職員で振り返り、検討が行われサービスや支援に活かされている。 神戸市が行ってきた虐待についての研修には必ず出席し、出席者からカンファレンスで話しを行い虐待についての理解を深めるように取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用について行政書士による研修を実施し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っている。現在、利用している方もあり、必要性があれば適切な支援ができるよう努めている。	Salon de l'Olympia Nadaの取り組みの中で、行政書士の「安心して地域で老いるために」の講演を聞き、権利擁護についての理解を深めている。講演には、地域の方、利用者も参加されている。職員は利用者からの制度利用の希望を円滑につなげることができるように支援している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の際には、十分な時間を取り、利用者やご家族の立場に立って、理解・納得が得られるように説明を行っている。また、疑問点に関しては速やかに解決できるように対応している。	契約時は、時間をかけ利用者・家族に分かりやすい言葉を使用して説明するように心がけている。契約は、利用までの生活を十分に理解するためにも自宅に出向いて行うようにしている。看取りについては、契約時に身体状況や病状に合わせて段階を追って話し合いを行いながら方針を決定し支援することを説明し理解してもらっている。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族懇談会、運営推進会議、食事会等の行事、ご家族来訪時等の機会を活用し、利用者、ご家族の意見・要望を聴く機会を設けている。意見や要望を言いやすい雰囲気作りに努め、寄せられた意見や要望については、全職員で共有し、速やかに運営に反映させるように取り組んでいる。	家族懇談会、食事会、10周年パーティーなど家族の来訪時に、リーダやホーム長が意見や要望・提案を聴取して納得できるように説明をしている。利用者がその方らしく過ごせるように職員全員で支援している。利用者個別に作成された家族とのやり取りができる伝言ノートから意見や要望を聴取するようにもしている。伝言を職員が把握するだけでなく、日々の関わり・支援方法・言葉かけを詳細に伝言ノートに記載しコミュニケーションを十分に取ることで家族の理解と協力を得て、利用者が気持ち良く過ごせる細やかなサービス提供に努めている。「オリンピア灘」を毎月発行しており、遠方の家族にも事業所での生活状況や活動状況などを伝えている。家族満足度調査からも職員全員の質の高いサービス内容をうかがい知る事ができる。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長が全職員に定期的に、また必要に応じて面談を行ない、職員の意見や提案を汲み上げ反映させるように取り組んでいる。また、日常的に職員がホーム長に意見や提案をしやすい関係性を築いている。法人全体としては、職員の提案を積極的に採用する方針を定めている。	ホーム長・管理者は常に、職員からの意見や要望を聞きとる姿勢を表現し、声かけを行い職員個別の悩みも含めて聞きとり、必要に応じて話し合いや検討を行い運営やサービスに反映させるように取り組んでいる。また、ケアリーダーやユニットリーダーも職員からの意見や要望を出しやすい関係作りに配慮している。職員からの意見や要望をカンファレンスや会議の席で話し合い・検討を行い運営やサービスに反映させるように取り組んでいる。カンファレンスや会議の席で職員から意見や要望を出し運営やサービスに反映させるようにもしている。今年度よりケアリーダーが全ユニットを通してみることで、ユニットの課題や問題も全ユニットで共有し話し合いや検討を行い、運営やサービスの質の向上に取り組んでいる。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが能力を発揮することができるように毎年目標を設定し、それに対する自己評価、上司による評価を実施している。努力や実績を積極的に評価することにより、得意分野を活かし、向上心を持って活躍できる環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの現状を把握し、それぞれの段階に応じた研修やトレーニングの機会を積極的に提供している。内部研修を数多く実施するほか、各種の外部研修などを活用し、質の高い人材の育成に法人として取り組んでいる。年1回の海外研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への積極的な参加等により、同業者との交流を通じ、サービスの質を向上させるように取り組んでいる。また、相互訪問の機会や他施設からの見学もあり、積極的に意見交換を行っている。宅老所・グループホーム全国ネットワークにも加入している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実施する面接において、「生活の主人公は利用者ご本人」という理念のもと、ご本人の立場に立って、不安や要望等を聴く時間を設けている。安心して新しい生活を迎えていただけるように、サービスを導入する段階から信頼関係の構築を目指している。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにご家族が抱えている不安や様々な要望を確実に把握するため、面談や来訪を通じてご家族の思いを十分聴く時間を設けている。ご家族の思いを受け止め、信頼関係を構築し、サービスの導入を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、ご本人とご家族が今置かれる状況を把握し、まず必要としている支援を見極め、早急かつ適切に対応できるよう努めている。必要に応じて、法人内外の他のサービスへの支援も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主人公は利用者ご本人であり、職員は生活のお手伝いをさせていただくという理念のもと、日々の喜びや悲しみを共有し、お互いに支え合い、向上することができる関係性を築いている。利用者から生活の知恵など多くのことを学び、利用者が職員を支えるという場面も生まれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人がこれまで通りの生活を送るためにはご家族の協力が必要であることを伝え、共にご本人を支える関係づくりに取り組んでいる。常にご家族と密に情報交換を行い、職員の利用者に対する思いも伝えるよう努めている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のこれまでの人生をよく知り、馴染みの人や場所を訪れる機会を設け、関係性を途切れさせないように支援している。ご家族の協力を得て、ご自宅や思い出の場所への外出を実現し、慣れ親しんだ環境への関わりを継続して持てるように努めている。	利用者のこれまでの生活状況や環境・習慣などを聞きとり把握することで、利用者の馴染みの場所に出かけたり、馴染みの人との交流を持つことができるように支援するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を常に把握し、利用者同士が共に助け合い、支え合えるように支援している。利用者同士が相談して物事を決め、互いに思いやり、労る場面を常に尊重し、職員は介入しすぎることなく自然に関わるよう努めている。またユニットを越えての利用者同士の関係作りにも取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス期間中に培った信頼関係を大切にしながら、サービス利用終了後も、必要に応じてご本人・ご家族と連絡を取り、必要な支援をしている。またご家族からも、ボランティアとして定期的な来訪、他の利用者のご機嫌伺いを兼ねての来訪、ご友人の紹介等支援していただいている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向を常に把握し、職員間で共有し、日々のケアに活かせるようにしている。また、意思疎通が難しい方も、表情や行動、言葉の端々から気持ちを汲み取れるよう努めるとともに、ご家族からも話を聴き、思いや意向に添った生活が送れるよう取り組んでいる。	毎月実施している各ユニットでのカンファレンス・ミーティングでの利用者一人ひとりの状況から、変化のあったことに焦点を当て、日々の関わりの中での状況や言葉・態度・家族からの話し等でアセスメントし、利用者の思いや意向・希望を把握するように取り組んでいる。意思の表出が難しくなってきた利用者へは職員だけの関わりで思いや意向・希望を把握するのではなく、生活を共にしている他の利用者からの関わりからも利用者の思いや意向・希望を把握するように取り組めている。利用者の趣味を生かせるように、全ユニットで趣味・特技カンファレンスを行い、利用者一人ひとりに合わせた趣味や特技を活かした活動を取り入れ、思いや意向・希望を表出しにくくなった利用者への意向表出の支援にも取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「今まで通りの生活」を大切にし、一人ひとりの生活スタイルに沿った支援ができるように、ご本人やご家族からの情報収集に努めている。また、センター方式のアセスメントを有効に活用することで、生活歴やサービス利用の経過等を把握している。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らしの流れに沿って、一人ひとりの現状を総合的に把握するように努め、利用者の有する力の変化に柔軟に対応している。利用者の新しい発見、些細な変化等については、リスク予測シート、カンファノート等を活用し、情報を可視化して共有することで日々のケアに役立てている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を用い利用者ご本人の視点にたって、ご本人やご家族の意向、職員の日々の気づきを反映させるように介護計画を作成している。定期的な見直しはもちろん、状態変化があれば職員全員でアセスメントを繰り返して行い、現状や課題の把握に努め、随時見直すようにしている。	センター方式を利用して担当職員が中心となり利用者の情報を整理し職員の意見や気づき、利用者・家族の希望・要望を取り入れてサービス計画書を作成している。3カ月毎に再アセスメントを実施し評価を行い計画の見直しを実施している。毎月担当職員が中心となり利用者の当月の身体状況や生活の様子の変化について話し合いが行われ、計画の振り返り（モニタリング・担当者会議）を行い計画の評価・修正の必要性を確認している。日誌の下書きの用紙に、当日の利用者の様子や状況を記入する際に、見て下書きができるように目標やニーズを明示している。日々の利用者の状況や状態、生活の様子は個別の記録に残すだけでなく、ワーカー日誌にも明示している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の様子や状況を適切に記録し、職員間で情報を共有しながらケアに活かしている。利用者の生きた証であるという意識を全職員が持ち、言葉や仕草、表情等を細かく記録し、介護計画の見直しに反映させるようにしている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状況やニーズに応じて、話し合いを重ねながら柔軟なサービス提供に取り組んでいる。重度化や看取りに関しても必要な医療との連携を図り、要望に応えられるように尽力している。また、デイサービス利用により馴染みの関係作りをした上でスムーズに入居されるケースも多い。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などを通して地域包括支援センターとの協働のほか、近隣の商店街や理美容院、病院等の地域資源を把握し、利用者一人ひとりの持てる力を発揮しながら、地域の持つ力を活用できるように支援している。また近隣保育園との交流も頻繁に行っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じて、かかりつけ医、または協力医療機関に受診できるように支援し、受診結果の情報の共有ができるように努めている。また、利用者の健康面で些細な変化や心配事があれば、その都度気軽に相談できるよう、かかりつけ医との関係作りにも努めている。	かかりつけ医は利用者・家族の希望のかかりつけ医へ受診ができるように支援している。専門医の往診もあり、往診時の記録も残され、利用者の病状や身体状況については情報の共有を図り、利用者の健康管理に活かしている。看護師の資格を持つ職員の配置もあり健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアリーダーとして看護師を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた適切な支援が常に行える体制が整っている。日頃からケアに携わっている職員が看護師ということで、利用者、職員だけでなくご家族からも相談を受けている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、利用者の情報提供とともに、安心して過ごせるように、職員や利用者が頻繁にお見舞いに行っている。また、入院によるダメージを最小限にとどめるため、早期退院に向けて病院関係者やご家族との情報交換や積極的な支援に努めている。	状態の変化が見られる場合は、かかりつけ医に相談を行い入院の必要性について判断してもらっている。入院になった場合には、医療機関へは情報シートで利用者の基本的な情報提供を行っている。情報シートは、いつでも速やかに出せるように予め作成されており、内容の変更が生じた時に修正を行うようにしている。入院中も利用者の病状について把握するようにしており、退院時カンファレンスが実施される時には、医療機関に職員が出向いて利用者が速やかに元の生活に戻ることができるように支援している。点滴や吸引なども必要に応じてかかりつけ医や看護職員が対応し、医療処置が必要であっても可能な限り対応し速やかに退院できるように配慮されている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期に関して方針を説明している。その後も状態の変化に応じて、利用者・ご家族の意向にそえるよう、随時話し合いを繰り返している。最期までその人らしい暮らしを支えるため、ご家族やかかりつけ医等と連携を図りながらターミナルケアに取り組んでいる。	契約時より重度化・終末期に向けた方針については説明を行い理解を促している。利用者の状態により段階に応じて家族・医療関係者・職員と話し合いを繰り返し行い、統一した方針で最後までその人らしい暮らしができるように支援するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に対応できるように、内部研修を定期的に開催したり、公的機関による市民救命士講習等外部研修を全職員が順次受講したりしている。またリスク予測シートを作成し、事故を予防できるようにも取り組んでいる。		

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の対応について法人内で研修を定期的に実施するとともに、昼夜を想定した消防避難訓練を年に2回実施している。また日常的に交流のある自治会、消防署等との連携を図りながら、災害発生時には協力が得られるように取り組んでいる。災害に備えて備品等の準備もしている。	運営推進会議で避難訓練状況の報告を行い、非常災害時には地域からの協力依頼を行っている。設備点検と同時に消防避難誘導訓練を行い非常災害時への対応を認識するようにしている。 昼夜想定で避難訓練を年2回実施している。避難訓練は消防署より自主的に行うように指導を受けて実施しているが、消防設備点検を業者が行う際に業者立ち会いの下、消防訓練を実施している。災害時に備えての備蓄・備品も備えている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が、敬語で話をすること、尊厳ある生活のお手伝いをすることをオリンピア灘の約束として取り組んでいる。また、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応等、職員同士注意しあいながら日々のケアの中で活かせるように努めている。	3つの約束の中にある「敬語で話す」などから利用者の尊厳を大切にした生活ができるように支援に取り組んでいる。パーソンセンタードケア勉強会を継続している。利用者一人ひとりの個人史を調べ、職員の学びの共有を行い利用者の尊厳を大切にしたケアに活かすよう取り組んでいる。日々利用者への支援のテクニックではなく、ケアをテクニック化・マニュアル化しないように配慮し利用者の尊厳・プライバシーを大切に考え共に生活するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「生活の主人公は利用者ご本人」という理念のもと、利用者が自己決定できるように職員は依頼型で声掛けをし、利用者が思いや希望を表すことができるように取り組んでいる。意思表示が困難な方に対しては、表情や仕草から思いや希望を汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「生活の主人公は利用者ご本人」という理念のもと、一人ひとりの生活のリズムやペースを大切にし、毎朝、どのように過ごしたいかを話し合い、希望にそって支援している。また、利用者が希望を気軽に伝えやすい雰囲気作りにも努めている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさが失われないよう、その人らしい身だしなみやお洒落ができるように支援している。毎朝ご自分でお化粧をされる方もいる。また、近隣の行きつけの美容室では、利用者の好みのヘアスタイルを楽しめるよう相談しやすい関係ができている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのもてる能力を引き出し、献立作りから調理、後片付けまで、積極的に参加されるように取り組んでいる。利用者同士で声を掛け合い調理や片付けをされる時もある。また、食事の時間は心が開く時ということを全職員が理解し、利用者と一緒の食事の時間を大切にしている。	利用者一人ひとりのできる力を活かして献立作りから調理や盛り付け・配膳・後片付けまで、家庭生活が自然に行われている。利用者全員参加で調理ができるように職員は配慮している。献立も利用者のリクエストや希望を季節や状況に合わせてうまく取り入れて立て、買い物も利用者と共に行うようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が利用者とともに食事をすることにより、好みや食事・水分量を把握し、異変があれば職員間で共有している。食事・水分量が低下しつつある利用者は、好みや生活習慣を見直し検討している。また、栄養バランス等については、法人内の栄養士のアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、一人ひとりの口腔状態や、ご本人の力に応じた口腔ケアを一緒に考え実施している。歯科医院や法人内の歯科衛生士からもアドバイスを受け、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握し、排泄の自立に向けて支援している。また、羞恥心や不安を軽減するためのさりげない声かけとともに、排泄用品の使用を減らせるよう、一人ひとりに合った排泄方法の検討を常にしている。	利用者の一人ひとりの排泄の状況やパターンを把握し、トイレでの排泄ができるように声かけや誘導を行っている。排泄の用品も利用者の排泄の状況により検討を重ね、必要最小限の用品の使用で羞恥心や不安を軽減するように働きかけを行い支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食生活において、食事のメニューの工夫や適切な水分補給を行うことにより、便秘を予防する取り組みをしている。また、一人ひとりの能力に応じ、散歩や体操など積極的に運動ができるよう支援している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの習慣や希望に添っていつでも楽しんで入浴できるよう、職員間で協力しながら支援している。あまり入浴を好まない利用者についても、不安や羞恥心等を取り除き、安心して入浴できるよう支援するとともに、ご自分から入浴したいと言えるような雰囲気づくりや声かけも行っている。	利用者個々の状況や希望に合わせて職員が声かけや誘導を行い、入浴が気持ち良くできるようにしている。利用者の羞恥心や不安を最小限にするようにするだけでなく、利用者が入浴を嫌がる理由を利用者の立場に立ち考え、検討を行い、入浴を気持ち良くしてもらえるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりが必要な休息や睡眠をとれるよう、生活リズムやその日の状況に応じて支援している。一律の就寝時間などは設けず、一人ひとりの生活のペースを尊重し、就寝前にはリラックスして過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の目的や用法を把握できるよう薬リストをファイルし、適切な服薬の援助ができるように、日々情報の共有を行っている。服薬時には確認を怠らず、誤薬等の事故防止に努めるとともに、身体状況の変化についても医師との情報交換を密に行っている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのこれまでの人生をよく知り、楽しみごとの継続、役割を持った生活等、その人らしく過ごせるよう支援している。また、カンファノート等を活用しながら、常に新しいことにチャレンジし、喜びへとつながるよう取り組んでいる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に応じて、日常的に外出できるように支援している。また、馴染みの場所、普段は行けないような場所へも、ご家族の協力を得ながら取り組んでいる。沖縄、城崎温泉、有馬温泉、夕日が浦温泉、淡路島等、これまでにもご本人の希望を数多く実現させている。	王子動物園の花見、利用者同士の希望で沖縄旅行へ出掛けたりと個別の外出・旅行支援を職員も楽しみながら支援している。 利用者の希望に応じて日常的に利用者の馴染みの場所や店に出かけたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	これまで通りの暮らしを続けるために、お金を持つことが大切であることを職員は理解し、一人ひとりの希望や能力に応じた支援をしている。お金を所持していることから安心感も生まれ、買い物への意欲も高まっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者がご家族や友人に気軽に電話をかけたり、暑中見舞いや年賀状等、時候に応じて手紙のやりとりをしたりできるよう支援している。また、外出の報告の手紙を、利用者と職員が一緒に作成し、ご家族に送るということにも取り組んでいる。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットをひとつの家として捉え、個性を大切にし、利用者と共に季節の花や写真を飾ったり、利用者の趣味の作品を飾ったり等、生活感や季節感を取り入れるようにしている。また、天窓を利用したりして、自然の音や光、風をうまくいかすことによって、居心地のよい空間作りに努めている。	玄関の草花のプランターが季節感を感じさせ、建物内は明るく、建物内はすべてバリアフリーになっており、利用者の笑顔と行動的な様子が印象的である。廊下の壁面には入居者の絵や写真が飾られ、リビングには家庭用の家具やソファーを使用する等、家庭的な雰囲気が感じられる。廊下のスペースに少人数用のソファー・椅子を置き、利用者が一人や気の合った利用者同士で思い思いに過ごすことができる場所が確保されている。2、3階の和室には茶具の設えがあり、趣味の場としても利用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットの随所にソファやテーブルセットを設置することで、一人で過ごしたり、気の合う方とのんびり語らえたりする居場所となっている。また、共用スペースにピアノを置くことにより、利用者同士でピアノを弾いたり、ピアノに合わせて歌ったりと、それぞれ思い思いに過ごせる場所にもなっている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族の協力を得て、使い慣れた家具、思い出の品々を持ち込まれ、利用者にとって居心地がよく、その人らしく過ごせるスペースとなっている。ベランダに大切な鉢植えを置かれ、水やり等楽しみのひとつになっている方もいる。	個々の利用者の思いが反映され、各ユニットの個性を大切にした居室は使い慣れた家具や小物の持ち込み、落ち着いた時間が過ごせる設えとなっている。利用者の趣味を活かしベランダに花や観葉植物の鉢を置き、利用者自身が水やり等の世話が楽しめるような配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの状態に応じ、「できること」や「わかること」を活かした環境づくりに努めている。家庭的な雰囲気を大切にし、安全に配慮した上で、できるだけ自立した生活を送ることができるように工夫をしている。		